

## “ISIJ International”原稿執筆の手引き

本手引きは A Guide for Preparation of Manuscript の日本語による要約に補足説明を加えたもので、より良い原稿作成のための指針、学術誌としての体裁の統一などに関する事項が記されている。ここに示された要領に従って執筆・投稿していただくことにより、編集・審査・印刷などの諸手続きが円滑に進められる。

### 1. スタイル

著者は独自のスタイルで原稿を作成できるが、内容の適切な伝達のためには構成・表現・用語において **clear, complete, coherent, concise, concrete, correct, courteous** であることが望ましい。適当なスタイルは本誌最近号を参照するとよい。不適切な英文表現の修正を編集委員会に期待すべきではない。とくに固有名詞、術語、数値データ、数式には注意が必要である。

### 2. 原稿長さの見積り

刷上がり1ページは約1,000単語に相当する。図は列の幅82mmにあわせて印刷される。最大図面サイズ110×82mmは250語(ダブルスペースでタイプした原稿一枚分)に相当する。

### 3. タイプ原稿

原稿は(1) 題目ページ、(2) シノプシスとキーワード、(3) 本文、(4) 引用文献リスト、(5) 図・表の説明の順に並べ、通しページを付して提出する。原稿はすべて上下左右に十分な余白をとって、A4紙にダブルスペースでタイプする。ギリシャ文字、イタリック、上つき、下つきを明確に指示する。

#### (1) 題目ページ

第一ページには題目と全著者の氏名、所属、住所を記入する。題目では著者が最も重要なものとして取り上げた事項を具体的に、簡潔かつ的確に表現する。連報形式および副題は用いない。On.....、Study on.....はつけず、また略号は避ける。審査過程において題目の修正を行った場合、本文中の表現との整合も必要である。

#### (2) シノプシス

報文の目的とその範囲、研究の手段や方法、重要な新しい事実・現象などの結果、その解釈と導かれる結論を、本文、図、表を参照せずに理解出来るように明確に示した著者抄録である。従って結論とは異なり、第三者から見た客観的表現をとる。シノプシスは常に題目を伴うものであるから、題目内容をくり返す必要はなく、題目で不十分な時の副題的表現にとどめる。シノプシスのみで独立かつ完成した形である必要があり、本文を読むべきであるかどうかの判断基準を与え、また抄録誌にそのまま転載されるものであるから、内容のオリジナルを明確に示す密度の高い記述が必要である。

#### (3) キーワード

記事内容を代表する重要な術語を、数語句選んで記載する。内容の特徴を表す研究対象、素材、特性、手法などに関する具体的な語句を選ぶのが望ましい。当然すぎるため、もれた語句がないかを注意する必要がある。各語は固有名詞以外は小文字で記し、語間をセミコロンで区切る。名詞は単数形とし、原則として省略形は使用しない。

#### (4) 本文 適当な章分けを施し、記載内容の流れがよく把握できるようにする。

##### (a) 緒言

主題の範囲と内容を明らかにして、著者の問題を解明していく観点を述べる。そのために、問題の背景を必要かつ最小限の関連文献を引用しながら、簡潔に記述する。

(b) 研究方法、結果、考察

- イ)実験研究に用いた材料・方法については、読者の追跡実験が可能なように記述する。
- ロ)使用材料あるいは装置は、商品名や商標の使用を避け、特徴・機能などを具体的に示す。
- ハ)理論解析においては、理論式の導出が理解できるように示し、追試できる数値解析結果を添える。複雑で長い取扱いを必要とする場合には付録としてまとめる。
- ニ)実験データは図と本文とに重複なく示し、図の使用は最小限度にとどめる。
- ホ)新しい概念や術語は、初めに明確に説明する。
- ヘ)略語は初出の時に、Thermo-mechanical Control Process(TMCP)のように、定義する。
- ト)独自の理論、新知見、解釈などオリジナリティを明確に表明する。
- チ)論旨を一貫してスムーズに展開する。

(c) 結論

結果および考察の章で提示した重要な新しい知見を明瞭に述べる。得られた結果から推論される結論とその妥当性を簡潔に示す。今後の展開の方向について考えを述べるのもよい。

(5) 引用文献

原著論文では、関連論文を網羅的に引用する必要はない。論文の内容と直接に関係するものだけに限り、それらをもれなく引用・言及する。引用文献は既に発表されていて一般に入手可能なものに限る。非公開の日本鉄鋼協会共同研究会等の資料については引用しない。私信は情報提供者の氏名、所属および入手時期を明示すれば引用できる。未刊行あるいは他に投稿中の論文を重要な文献として使用する時は、そのコピーを審査資料として添えることが望ましい。

イ)本文中に引用する文献の著者名は、姓だけで示す。本文中では、著者が二名までの場合は必ず二名とも姓を記し、三名以上であれば第一著者名以外をet al.で示す。

ロ)文献は引用順に通し番号を付け、該当箇所の右肩に上つき数字で1)、2-5)のように示す。

ハ)引用文献は引用順にリストにまとめ、別紙にダブルスペースでタイプする。

ニ)引用文献リストにおいては、共著者が多数の場合でも省略せず、全部列記する。

ホ)同一雑誌を連続して引用する場合でもibid.を使わない。

ヘ)引用文献リストにおける文献記載法は次の通りとする。雑誌名の略記法はISO規格(Chemical Abstracts, Metals Abstractsにて採用のもの)に準拠する。

【例】 I.Ohnaka and K.Kobayashi: Trans. Iron Steel Inst.Jpn., 26(1986),781.

Y. Hisamatsu: Tetsu-to-Hagané, 72(1986), 889.

W. C. Leslie: The Physical Metallurgy of Steels, McGraw-Hill, NewYork,(1981),151.

[学振資料の引用方法] (ただし、投稿者は、原著者及び学振から許可を得ること)

Authors' names:The 54th Committee(Ironmaking),the Japan Society for the Promotion of Science (JSPS),Rep.No.1234(Jan. 1981).

4. 図および表

(1)図、グラフ、写真はFig.として通し番号を付ける。

(2)図および表は一つずつA4判用紙一枚に書くか貼りつける。右下隅に代表著者名を記入する。

(3)それぞれ図および表には簡潔な説明文を付け、それらをまとめて別紙に番号順にダブルスペースでタイプしたリストを作成する。

(4)原稿本文右余白に、図および表の挿入位置を記入する。

(5)図作成要領の詳細は、A Guide for Preparation of Manuscriptを参照のこと。

(6)カラー写真は、編集委員会において必要と認めた場合、著者の実費負担により掲載できる。